

2006年春闘 経験・交流・改善へ

NRU 国労せんだい

新年号
2006年1月1日
発行責任者 太田博二
編集責任者 五十嵐敬

新しい年を迎え

国鉄労働組合仙台地方本部
執委員長 太田 博二

新しい年を迎えました。昨年未は記録的な雪の影響で、ご苦労をされた組合員も多かったと思います。さて、今年は採用差別事件にとつて重要な年です。最高裁でJRへの復帰の道を法的に断たれ、残された道は政治的にその道を作る以外にないのですが、それは法的な時効を迎える以前に何としても作らないと、政治的な道も閉ざされてしまいかねません。そのためにはまず、今までの内部の亀裂を修復し、名実ともに国労の団結が結実された状態を作ることが大切です。



藤勝雄氏の「中央執行委員長就任にちなう激励会」

幸いにしてその雰囲気は高まり、多くの方々の努力が

また、大量退職時代を迎えて国労も組合員の減少が続きます。組合員を増やすことは必須の課題となっています。それに関して、昨年会社との間で争っていた昇進差別事件の和解は大きな環境の変化をもたらすと思います。和解内容そのものは多くの不十分な点を含んでいますが、私たちが能動的にする条件づくりには大いに役立ちますし、組織拡大の大きな足がかりになることは間違いありません。みんな頑張りましょう。労働運動はこの何年か冬の時代と言われ資本に押し込まれてきました。労働者を取り巻く状況はまだまだ厳しい環境下にあります。不

成果を収めていきます。地方本部もさらにその努力をし、そして物販や連帯する会の拡大など、闘いの基盤を健固なものにしていきたいと思っています。

「和解を組織拡大の足がかりに」

感電死亡事故発生

・二〇〇五年十二月八日四時五十五分奥羽本線赤岩・板谷間上り環金トンネル壁面米沢方で協力会社社員（作業責任者三十二歳、日本電設の協力会社）の感電死亡事故が発生した。

原因は調査中だが、「停電範囲外で作業をしたため、加圧中の高圧配電線に接触感電したものの」（設備安全情報 2006-1）

付後、縦スパン線用の腕金取付位置決めをしようとしていた時に、高圧配電線R相のクランプ部に左手が触れ感電した（推定）。「感電部位左手の手のひらと右手親指に電撃症3度程度の傷があった」。「六時二十五分に収容先の米沢市立病院で死亡が確認された」（情報より）等、感電事故経過となっております。

満やストレスは、いつぱいたまっていると思えます。これを打破するにはやはり、自覚された労働者、労働組合が努力する以外になかなか良い手はないと思います。これは実は大変な作業で根気のいることですが、まずは最低限不可欠なことではないでしょうか。仲間と話し合う、集会をする、働き方や環境を調べる、ニュースを出す、要求する等々、改善することとは多々あると思えます。春闘を目指した取り組みを意欲的にやってみましょう。

原因は「停電範囲外で作業したため・・・」と情報が出され、職場での安全指導等は「保安打ち合わせ票での打ち合わせにない作業をした」、「高圧配電線に接近作業なのに停電・接地を取っていない」、「高圧配電線も停電していると勘違いした」等などの声が出ています。

「承認」する！何故
「工事指揮者は、作業責任者から無線連絡でトンネル壁右側の負電線腕金位置を信号高圧2号線R相の線路側に位置変更して設置したい旨、事故発生三十分前に再度要請されたため、やむを得ず承認した」。「本人は、軌陸車作業台から梯子を掛け、トンネル壁右側の坑口スパン線用腕金を取

謹賀新年

執行委員長 太田 博二

執行副委員長 橋本 昭二

書記長 中島 利彦

書記長 大沼 元

執行委員 永山 信義

執行委員 佐藤 勝

執行委員 武田 昌仙

執行委員 五十嵐 敬

特別執行委員 秋山 正浩

特別執行委員 田口 和幸

特別執行委員 大倉 満

特別執行委員 橋本 守弘

特別執行委員 庄司 修

特別執行委員 原田 好太郎

特別執行委員 武田 幸喜

特別執行委員 婦人部長 菅原 芳子

特別執行委員 会計監査 千葉 秀治

特別執行委員 浅利 功

特別執行委員 岡崎 均

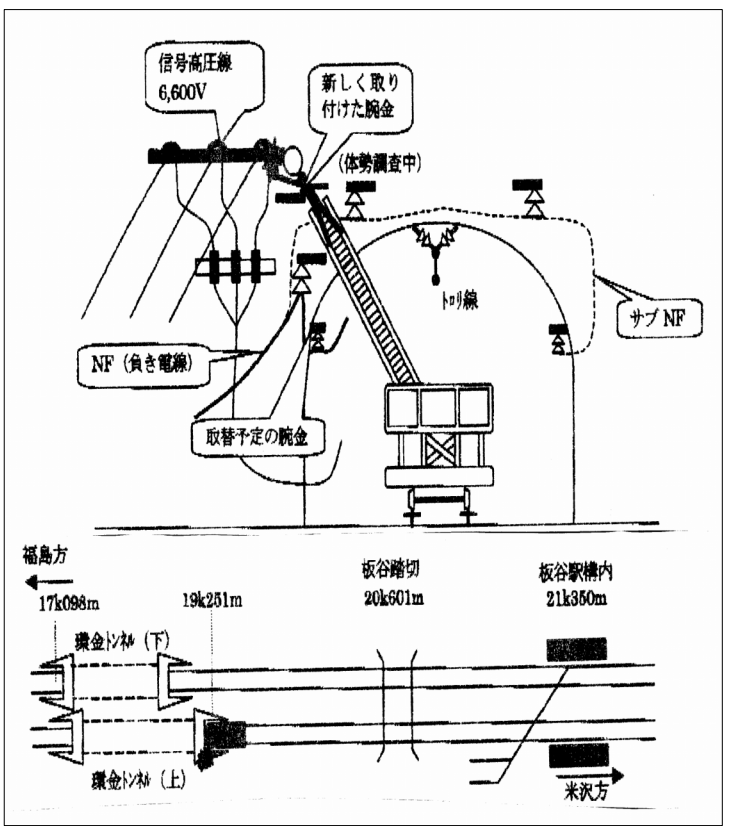
書記 岡崎 均

「き電停止時間の違いは何故」
 ・当時の停電時間は、き電停止上下線二十三時三十分〜五時四十分、高圧配電線停電（信号高圧2号線）二十三時四十五分〜四時四十分でした。「高圧配電線の停電時間を、き電停止と同じにする（冬期間はポイントヒーターの関係で長時間停電確保出来ない）」

「き電停止時間の違いは何故」

「工期延伸は何故」
 持物取替その他工事で、工期は、九月十五日〜十二月十三日（九十日）、しかし、工事の遅れで十二月十四日〜二月二十六日（七十五日）に延伸された。（豪雪地、延伸されても作業施工が大変な箇所）

「工期延伸は何故」



○き電停止(2万V上下線)	(23時30分)	(5時40分)
●信号高圧2号線停電(6,600V)	(23時45分)	(4時55分)感電事故

これらの実態をもとに「何故、停電範囲外での作業をしなくてはならなかったのか」を掘り下げ、「き電停止の回数」「協力会社の要員、工賃事情」「保安打合せ票の打合せの諸問題」等々を明らかにし、原因究明を強め再発防止を図らなければならない。

「今安全（生命）が脅かされている」

「今、安全が脅かされている」
 ・福知山線脱線転覆事故、耐震強度偽装事件、羽越線特急脱線転覆事故等、支社内でも「一輪車を線路内に置き忘れ貨物列車と衝突」「線路閉鎖で使用したLEDの撤去忘れ」「線閉転軸機清掃中に列車が進入」「宮城県南部地震による線路点検作業員への運転再開連絡失念」等、あわや触車につながる事故が多発しています。

「学習と交流が労働運動の基本」

「学習と交流が労働運動の基本」
 冒頭、主催者を代表して青木東北協議会議長（秋田）より「課題が山積する国労の現状にあつて、若手活動家の育成が急務となっており、今回

過去の感電事故等の例

- ・1997年(平成9)7月20日(水)23時55分 東北本線藤田駅構内誘導電圧による感電死亡(協力会社員)
- ・2002年(平成14)11月22日(金)10時10分 秋田支社官田駅高圧配電盤 高圧トランス検修工事で高圧一次側を誤って測定感電受傷(協力会社員)
- ・2003年(平成15)1月12日9時57分 東北新幹線仙台総合車両所構内 動力室内 配電盤清掃中に感電受傷(協力会社員)
- ・2004年(平成16)10月7日 奥羽本線山形車両センター構内 発生レールを積み込む際ユニット車のブームがトロリー軌に接触し感電死亡(協力会社員)

国労東北協議会

国労東北協議会は、去る十一月十三日、十四日、宮城県松島町において、第二回の活動家交流集會を開催してきました。

この集會はこれまで国労東北三地本として隔年で行われてきた野球（スポーツ）交流会に代わる取り組みとして、将来を見据えて活動家を育成する目的で開催されており、秋田・盛岡・仙台の各地方本部から中堅層を中心として総勢五十名が結集し、成功裏に終了しました。

第2回国労東北活動家交流集會



青木東北協議会議長

で2回目の開催となった。頑張つて欲しい」と激励の挨拶を受け、その後安藤陽氏（埼玉大学教授）より「JR二十年の検証」、畑隆氏（富士常葉大学教授）より「東アジアの経済」という講義をそれぞれ2時間をずつ受けました。



安藤陽氏（埼玉大学教授）

夜まで交流を続けた

日頃、課題や目的意識を持つて学習する機会が少ない中で、久しぶりにみっちり学習し皆さん充実感にあふれている様子でした。

第二部は国労の最も得意？な交流です。アルコールで喉を潤し、地本の枠を超え、深層まで交流を続けた



畑隆氏（富士常葉大学教授）

見・要望などを報告していただき、ありがとうございました。

中央副委員長から「国労の現状と課題」という講義をそれぞれから聞き、最後に各地方の皆さんより職場の現状や課題、意見・要望などを報告していただき、ありがとうございました。

「学習と交流が労働運動の基本」
 冒頭、主催者を代表して青木東北協議会議長（秋田）より「課題が山積する国労の現状にあつて、若手活動家の育成が急務となっており、今回

- | | |
|--------|-------|
| 議長 | 奈良岡克也 |
| 副議長 | 瀬下一司 |
| 事務局長 | 太田博二 |
| 幹事 | |
| （秋田地本） | 渡邊 敦 |
| （盛岡地本） | 高橋伸二 |
| （仙台地本） | 大沼 元 |
| （貨物） | 木村昭光 |
| 会計監査 | 伊藤政利 |
| | 沢田光広 |